

## オリエンテーション

### 「島根大学教育学部附属学校園における 幼小中一貫教育実現への取り組みについて」

附属学校部長 森本 直人

島根大学教育学部附属学校部は平成 16 年の教育学部改組に併せて、従来独立して運営されていた附属幼稚園、附属小学校、附属中学校を一体的に経営するために設置されました。そして教育学部や教育学研究科の改革に併せて、平成 20 年度を目標に、11 年一貫教育学校として、現在の附属幼稚園、附属小学校、附属中学校の統合再編を計画しております。具体的には別添資料（2 頁～4 頁）に譲りますが、小 1 プロブレム、中 1 プロブレム等、学校種間の円滑な接続を目指すのみならず、11 年一貫した教育理念の下で、児童生徒の発達の期に応じた教育の実現を目指しての教育改革を追求しています。

具体的には、平成 18 年度より三附属校園合同の研修会を実現して、全教職員参加の下で「幼小中一貫教育」の実現に向けた本格的な検討を開始しました。わずか半年余の取り組みでまだまだ研究的には不十分な段階ですが、この「幼小中一貫教育を語る会」を企画致しました。この研究会において、試行的な授業提案、分科会の提案を行い、これまでの私たちの「一貫教育」への取り組みについてご理解を頂くとともに、参会される皆様との意見交換・情報交換を行う中で、一貫教育にかかる課題を整理し、今後の附属学校園の幼小中一貫教育（カリキュラム開発等）に活かしていくことを目指しています。さらに、先駆的に「小・中一貫教育」または「幼・小一貫教育」に取り組んでおられる奈良女子大附属、京都教育大学附属、広島県府中市教育委員会からシンポジストをお招きして「幼小中一貫教育実現に向けて」の取り組みの特色と課題について、議論を深め私たちの研究へ大きな示唆を得ようと考えています。

この取り組みが、単に私たちの附属学校園の改革にとどまらず、島根県下においても松江市や出雲市をはじめとして「小・中一貫教育」に取り組み始めている中で、県下の一貫教育の研究や実践をリードするとともに、全国的なレベルにおいても一つのモデルを提示することができればと期待しております。



平成18年9月島根大学教育学部改組検討WG

「島根大学教育学部附属学校園一貫教育のあり方について」報告より

## 一貫教育で育てたい子どもの姿

○新しい時代を切り拓き、社会に貢献しようとする子ども

人材育成

確かな知識を基盤とした優れた判断力・行動力を持ち、協働して豊かな社会の実現に果敢に挑戦しようとする。

○豊かな感性を育み、創造的に探究し続ける子ども

確かな学力

人や事象の持つさまざまな価値や本質をイメージ豊かにとらえ、知的好奇心を持って学び、探究し続けていこうとする。

○人とのかかわりを大切にし、共に伸びていく子ども

豊かな人間性

自他のよさと可能性を尊重し、支え励まし合いながら、よりよい人間関係と自己の伸長を図っていこうとする。

## 基本理念・基本目標

### —基本理念—

幼稚園・小学校・中学校の共同による一貫した教育によって、次代を創造していく優れた人材を育成する

子どもたち一人ひとりが、自ら考え行動していくことのできる自立した個人として、心豊かにたくましく生き抜いていくことができるように、幼稚園・小学校・中学校が共に力を合わせ、一体となった教育を行う。また、学部や家庭との連携を図る。

### —基本目標—

- 確かな基礎学力の定着と高度な応用力を育み、自ら学び自ら考える力を伸長する。
- 健康な心身と豊かな人間性を育み、よりよく生きようとする意欲と態度を伸長する。

基本理念・基本目標の達成をめざし、

4歳児から小学校第2学年までの4年間を初等部前期、  
小学校第3学年から小学校第5学年までの3年間を初等部後期、  
小学校第6学年から中学校第3学年までの4年間を中等部とし、  
次に示す方針のもとに11年間の一貫教育を行う。

<解説>

幼小並びに小中の教員組織の連携を図り、校園間の  
ギャップ(小1プロブレム・中1ギャップ)を感じさせない、  
スムーズな学校教育(11年一貫教育)を提供する。

そのうえで、附属学校部の幼児・児童・生徒の発達段階、  
教育内容、管理運営体制、教員、施設設備等を総合的  
に判断し、「4-3-4」のブロックを設定した。

①基本目標に掲げる

「確かな基礎学力の定着と高度な応用力を育み、自ら学び  
自ら考える力を伸長する。」の達成をめざした方針

【初等部前期】

基本的な生活・学習習慣の定着を図るとともに、体験を重視した  
活動を通して、自ら探究していく基礎を培う。

【初等部後期】

問題解決的な学習などを通して、基礎的・基本的な学習内容の  
確実な定着を図る。

【中等部】

主体性を基盤とした深化・発展的な学習を通して、応用する力や  
活用する力を培う。

## ②基本目標に掲げる

「健康な心身と豊かな人間性を育み、よりよく生きようとする意欲と態度を伸長する。」の達成をめざした方針

### 【初等部前期】

集団的な活動や豊かな体験を通して、学校生活に適應する力を育む。

### 【初等部後期】

人とのかかわりを通して、相手を思いやり自らを高めようとするよりよい人間関係を醸成する。

### 【中等部】

将来に向けた視野の拡充を図ることによって、よりよく生きようとする意欲と態度を伸長する。

## 学級編制について

- 平成20年度より移行を開始し、平成25年度を完成年度とする。段階的に学級編制・学級定員を変更し、完成年度には下図の体制とする計画である。

◆完成年度(平成25年度)の学級編制

	初等部前期				初等部後期			中等部			
	附属幼稚園		附属小学校						附属中学校		
	4歳児	5歳児	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	第1学年	第2学年	第3学年
学級数 (学級定員)	1学級 (定員30)	1学級 (定員30)	2学級 (定員30)	2学級 (定員30)	2学級 (定員30)	2学級 (定員30)	2学級 (定員30)	2学級 (定員30)	4学級 (定員32)	4学級 (定員32)	4学級 (定員32)
学年定員	30名	30名	60名	60名	60名	60名	60名	60名	128名	128名	128名
特別支援体制	特別支援教育:1学級				特別支援教育:1学級			特別支援教育:1学級			

- 個に応じたきめ細かな指導を推進するために、1学級の定員を段階的に30人程度へ引き下げるとともに、T・T等を柔軟に取り入れることで少人数に対応した学習指導も並行して行う。
- 幼稚園から中学校までの特別支援教育体制を構築し、ブロック毎に特別支援教育学級(仮称)を設置する。

※なお、本計画は平成20年度予算編成を経て実施されるものです。

○ 日 程

8:30 8:50      9:05 9:15      11:05 11:15      12:35 13:30      14:50 15:00      16:30

受付	オリエン テーション	移動	公開授業	移動	授業分科会	昼食	テーマ別 分科会	移動	シンポジウム
----	---------------	----	------	----	-------	----	-------------	----	--------

○ 公開授業 学級, 単元名, 授業・保育者

授業分科会		9:15	9:30	10:00	10:15	10:20	11:00
幼稚園・低学年	年中さくら組 〔合同交流〕			「いっしょにあそぼう」 星野和美			
	小学1年1組			「いっしょにあそぼう」 赤木寛子			
国語・ことば	小学2年1組			「みんなで声に出して読もう」 ～ 昔話の世界 ～ 喜多川昭博			
社会・環境	小学5年1組			「ディスカバー日本」 ～ わたしたちの国土の自然と人々の暮らし ～ 吉崎 朗			
	中学1年1組			「身近な地域の歴史学習」 ～ 中世の日本海水運 ～ 竹崎葉子			
算数・数学・ かず	小学2年2組			「さんかく・しかくってなあに？」 仙田淳一			
理科・環境	年長つき組			「ひみつのひみつを見つけたよ」 相原 泉			
	小学3年2組			「磁石のひみつをさがろう」 齋藤由美子			
音楽・表現	小学4年2組 〔合同授業〕 中学2年選択			「ふしの重なりを楽しもう」 ～ リコーダーアンサンブルを楽しむ ～ 小林佳子・今岡正治			
体育・健康	小学1年2組			「とべ！なわレンジャー」 ～ 基本の運動・用具遊び ～ 荏田幸浩			
技術・家庭	小学5年1組			「野菜をおいしく食べよう」 ～ ゆでる・いためる編 ～ 吾郷綾子			

## ○テーマ別分科会

教科・領域	分科会テーマ
英語	英語活動と英語科の接続 ～ 今、何が課題か ～
図工・美術・表現	素材や表現方法の系統性から幼小中一貫教育の造形教育を探る
総合的な学習の時間	小中7年間の総合学習の構造づくり
幼児・児童・生徒支援	<p>[パネルディスカッション]</p> <p>一貫教育における効果的な幼児・児童・生徒支援のあり方について ～ 心の問題に視点をあてて ～</p> <p>コーディネーター：島根大学教育学部 助教授 齋藤英明                      パネリスト：府中市教育委員会教育推進課 指導主事 小川美樹先生                      島根大学教育学部 助教授 三宅理子                      島根大学教育学部附属中学校 教諭 宮崎紀雅</p>

## ○ シンポジウム

### 「幼小中一貫教育の実現に向けて」

- ・コーディネーター・・・島根大学教育学部助教授・附属学校主事 権藤 誠剛
- ・シンポジスト・・・
  - 広島県府中市立北小学校 校長 田原 和博 先生
  - 京都教育大学附属京都中学校副校長 橋本 雅子 先生
  - 奈良女子大学附属小学校 教諭 谷岡 義高 先生